

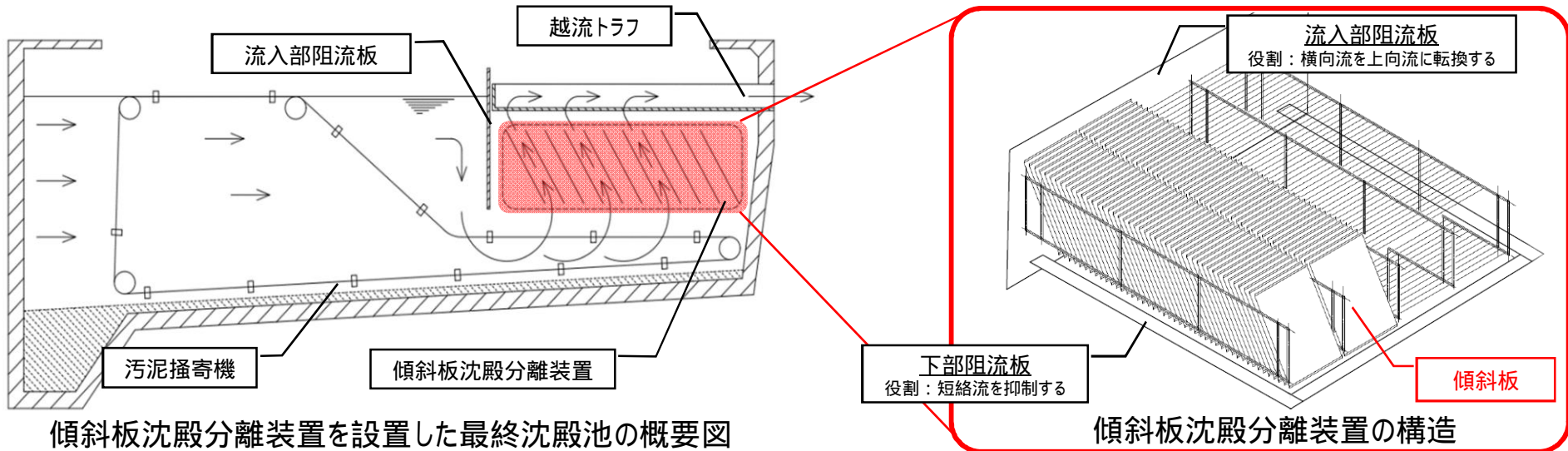
最終沈殿池用 傾斜板沈殿分離装置

【背景および課題】

- ・ 高度処理化に伴う処理水量の維持や施設の統合による一時的な流入水量増加に対し、これまでは施設の増設により対応。 **多大なコストと長期にわたる維持管理が必要**
- ・ 流入水量が減少している場合も、池数を減らせない場合は、同一池数での改築更新が行われてきた。
同一規模での改築更新は、過大な設備の維持管理が必要

【技術概要】

- ・ 傾斜板沈殿分離装置とは、上水分野で実績の多い「傾斜板沈降装置」を下水処理場の最終沈殿池仕様に改良したもの。
- ・ 傾斜板を多数配置することで、沈降面積の増大、汚泥沈降距離の短縮、沈殿池内の整流効果を得ることができ、SSの除去効率を高めることができる。



【導入メリット】

- ・ 既存**最終沈殿池の処理能力を増強**させ、新たな躯体築造や過大な設備更新を回避し**低コスト化**。

最終沈殿池用 傾斜板沈殿分離装置

【適用範囲】

- (1) 新設もしくは既設の矩形最終沈殿池に適用。
(ただし、多階層式最終沈殿池は適用外)
- (2) 反応槽のMLSS濃度2,600mg/L以下かつSVI350以下の処理系列に適用。



本装置の設置状況

【本技術の特徴】

- (1) 新たな動力が不要
 - ・ 駆動部を有しない装置構造であるため、**無動力**。
- (2) 既存躯体を活用可能
 - ・ 既設の汚泥掻寄機などと干渉することなく設置が可能であるため、**容易かつ少ないイニシャルコスト**で導入することが可能。
- (3) 維持管理が容易
 - ・ 傾斜板は一段構造であるため、清掃作業が容易。
 - ・ **汚泥界面管理は従来式沈殿池と同様**。



装置下部の空間



清掃作業状況

導入前



導入後

